

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 9 月 29 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24501181

研究課題名(和文) 小学校外国語活動における教授ツール・評価ツールとしてのポートフォリオの活用

研究課題名(英文) Utilization of Portfolios as an Instructional and Evaluation Tool in Foreign Language Activities at Elementary School

研究代表者

北條 礼子 (HOJO, Reiko)

上越教育大学・学校教育研究科(研究院)・教授

研究者番号：50199460

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究には大きく2つの目的があった。第一の目的であるが、小学校外国語活動において教授ツール・評価ツールとしてポートフォリオを活用し、その効果を検討したが、その結果、教授ツールとしては、ポートフォリオを作成する際に児童数人によるカンファレンスを大切にすると、より効果が期待できることが明らかになった。評価ツールとしても子どものポートフォリオの収集物(エントリー)がデータとして有効であることがわかった。さらに、第二の目的である「読む・書く」ことに焦点を当てた文字指導プログラムは高学年児童に好意的に受け止められ、5年生時点で低下するとされている同活動への動機づけを向上する上で効果があることがわかった。

研究成果の概要(英文)：This study had two main purposes. The first purpose was to examine the effects of portfolios as both an instructional tool and an evaluation tool for elementary school 5th and 6th graders. It was found that portfolios could be effective to nurture their motivation as well as to evaluate their foreign language activities. Particularly, it was found that conferencing played a very important role in developing portfolios as an instructional tool. The second purpose was to create learning programs for 5th and 6th graders focusing on especially reading and writing English words and easy basic sentences. During the study period, three programs for each grade respectively were developed and the results of this study revealed that elementary school students evaluated the learning programs highly. Their motivation toward foreign language activities could be said to be stimulated through learning how to read and write English words and sentences through these programs.

研究分野：教育工学

キーワード：ポートフォリオ 教授ツール 評価ツール 動機づけ 文字指導 書く活動 外国語活動 小学校英語

### 1. 研究開始当初の背景

(1)平成 23 年度より外国語活動(英語)が必修化され、次年度には 98%の小学校が同活動を実施していた。しかし、高学年 5・6 年生児童は、単純な繰り返しや歌、ただおもしろいだけのゲームにはそれ程興味を示さないことが報告され、特に 5 年生段階で英語への動機づけが低下することが報告されている(茂木、2010; 國本、2006)。そこで、高学年児童の興味・関心を理解し、知的発達段階や学習経験に応じた教材指導法を選択しなければ、高学年児童が低・中学年から慣れ親しんできた英語学習への興味・関心を失ってしまう可能性が指摘され、児童の心身の発達レベルと英語能力のレベルのギャップをどのように埋めるかが課題と鳴っている。高学年児童は抽象的、論理的指導が可能となり、知的発達のめざましい時期であることから、外国語活動において読むこと、書くことという文字に対する関心が強い(本間、2011)。文字指導は児童の知的好奇心を満たし、かつ達成感が得られるような活動となる可能性が高い(松川、2007; 樋口、2005)。

(2)筆者は言語教育におけるポートフォリオの活用をテーマとした研究を継続してきたが、ポートフォリオは、学習者自身の学習の振り返りや言語学習における自律学習への態度養成に効果があること、学習者同士の協同学習が自律学習への態度養成に重要な役割を果たすこと、が明らかになった。筆者の勤務先である大学附属小学校において大学院生、学部生による英語活動の出張授業において実施した研究も含まれているが、この出張授業では、特に高学年児童の知的好奇心を刺激するような活動に取り組み、主に読むこと中心の文字学習プログラム作成に焦点をあて、加えてオーストラリアの提携校との国際交流(テレビ会議、交流)、を実践し、高学年児童から大変肯定的な反応を得た。文字指導については、平成 19 年度小学校英語活動実施状況調査結果では、6 年生の「文字にふれる活動」が 50%弱となっている。小学校外国語活動を推進していく上でどのような文字指導を実施していけばよいのかは重要な課題となっていることには異論がないであろう。実際、文字指導を肯定する立場も表明されている(樋口、2005; 野呂、2007)。

(3)ここ数年の筆者の附属小学校における実践をとおして、文字指導は実践上の課題が多く、例えば児童全員がアルファベットの大文字、小文字を読めるという目標を掲げても、容易に完全達成はできないのが現況である。出張授業では、少しずつ書く活動を取り入れるようになり、年度を追ってその幅を拡張している。何より特徴的なのは、書くという文字学習を嫌がる児童が特に見受けられないことである。さらに文字を書く活動の実施により、児童はポートフォリオに収める成果物

を作成することができるようになっている。教授という外側からの児童への動機づけへの働きかけだけではなく、高学年児童は外国語活動において書く活動をとおして自らの成長記録をポートフォリオに保存できる状況になっており、加えてポートフォリオ作成過程でカンファレンスを活用することにより、児童が自ら同活動への動機づけを高めることが大いに期待できる。また、ポートフォリオ導入により児童の自己評価も含め、同活動の評価も行うことができる。

### 2. 研究の目的

平成 23 年度より小学校外国語活動(英語)が必修となった。外国語活動が将来教科化されるという予想の下、現在、評価が大きな課題となっている。またここ数年来、高学年児童の外国語(英語)活動に対する動機づけの低下が報告されている。この大きな 2 つの課題を解決するため、本研究では評価ツールとして、また自律学習態度と動機づけの向上に有効な教授ツールとしての手立てとしてのポートフォリオを外国語(英語)活動に導入し、その有効性を明らかにすることが第一の目的である。また、ポートフォリオ導入のためには、高学年児童がポートフォリオに収める成果物が必要であることから、児童の知的成長に合った、読む・書く活動を開発することが第二の目的である。

### 3. 研究の方法

(1) 研究目的達成のため、実践はすべて実験協力校である附属小学校における高学年 5、6 年それぞれ 2 クラス外国語活動出張授業において平成 24 年度から平成 26 年度まで毎年 10 月から 3 月にかけて行った。また、毎年、日本教育工学会において研究成果を発表した。さらに、毎年海外の小学校英語活動を参観し、本研究での活動プログラムの作成の参考とした。

(2) 研究初年度の平成 24 年度には、高学年児童 5、6 年生を対象とし、教授ツール、評価ツールとしてのポートフォリオを小学生に初めて導入するため、これまで作成済みのポートフォリオに必要な書式を小学校高学年児童用に改訂しながら、試行した。同時に、ポートフォリオに収める成果物としての文字を「読む・書く」活動を考案した。研究 2 年目の平成 25 年度には前年度の研究結果を基に、外国語活動の評価ツール、教授ルールとしてのポートフォリオの効果を検討し、必要な箇所を修正した。さらに、前年度の文字を「読む・書く」活動を基に新たな改良を加えた活動を考案した。その上で、外国語活動出張授業においてポートフォリオを活用し、教授ツール、評価ツールとしてのポートフォリオ効果を確認した。最終年度の 26 年度には、附属小学校での実践を継続し、最終的なポートフォリオ活用の効果を確認し、同時に

文字を「読む・書く」活動をさらに発展させ、その効果を検討した。5年生では、前年度が外国の映画のセリフを用いて生きた英語に取り組んだが、26年度には日本の映画の英語版のセリフを用いた。6年生では台湾の交流校とのビデオレター交換のため、KINECT という静止画の背景に動画を組み合わせるソフトを用いてわかる範囲で英文を作成し、iPadにより英文の個人練習も取り入れた活動プログラムを作成・実施した。

#### 4. 研究成果

(1)平成24年度には、主に教授ツールとしてのポートフォリオの効果に焦点を当てて検討し、予備実験を行ったが、そこから、教授ツールとしてのポートフォリオは高学年児童の動機づけを向上させる上で効果があることが明らかになった。5年生ではフォニックスのルールを丁寧に説明しながら、英単語を読む活動、書く活動を取り入れたプログラムを作成し、6年生では台湾の小学6年生との国際交流が予定されていたので、それに向けて読めて、書けて、言える英語で自己紹介ができるようになるためのプログラムを作成、実践した。どちらのプログラムも参加者から高い評価が得られた。

(2)平成25年度には、前年度の予備実験の結果を基に、本実験を行った。まず、5年生ではフォニックスのルール(2文字子音、連続子音)を用いて英単語を読む活動、読んだ単語を書く活動、ディズニー映画などのセリフを用いて生きた英語を言うてみる活動を組み込んだプログラムを作成、実践した。6年生では、他教科関連の内容を取り入れ、聞くこと、話すことに加えて読むこと、書くことを含む文字指導を取り入れたプログラムを作成、実践した。どちらの活動プログラムも参加者からそれぞれ大変好意的な評価を受けた。次に、ポートフォリオであるが、5・6年生共にポートフォリオ作成期間の中間と終末期にカンファレンスをそれぞれ2度実施した。5年生では、ポートフォリオが自分の学習の振り返りに有効であったこと、仲間の発表や自分への評価を聞くことで、自分のさらなる意欲が高まったことが示された。また、6年生では、活動の目標である既習の知識の活用や他教科関連の内容を毎時意識して活動に取り組めたとの感想が得られた。特にガイドラインを活動前に提示し、時間をかけて丁寧に説明したことにより、活動の学習目標が児童にとってわかりやすいものとなり、6年生は学習目標に準拠した振り返りが可能となり、個人の学びを深めることにつながったことが明らかになった。

(3)最終年度の平成26年度には、5年生においては、フォニックスのルールを用いて英単語を読む活動、その単語が含まれている、日本映画の英語版のセリフを用いて、セリフを

実際に言うてみる活動、練習した単語とセリフの短い英文を書く活動を組み合わせたプログラムを作成、実践した。6年生では、台湾の交流校6年生とのビデオレター交換のため、KINECT という静止画の背景に動画を組み合わせるソフトを用いて、わかる範囲で英文を作成し、iPadにより英文の個人練習も取り入れ、最終的にビデオレターを作成し、相手校の教員3名がたまたま訪問する機会があったため、教員による評価も6年生にフィードバックした。5、6年生から活動に対し高い評価が得られた。また、ポートフォリオも作成し、特にカンファレンスの実施が高学年児童にとっても、学習の振り返り、さらなる意欲の向上に効果が期待できることが明らかになった。

いじょうから、ポートフォリオは児童にとっては外国語活動に対する動機づけの維持、向上に効果があり、特に仲間同士のカンファレンスが有効であることが明らかになり、児童が作成したポートフォリオは児童の自信の学習の振り返りだけではなく学級担任にとって外国語活動の評価ツールとしても役立つことが示された。また、読むことばかりでなく、書くことを積極的に取り入れた活動は児童にとって負担ではなく、むしろ楽しくかつためになる活動であることも確認された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計4件)

北條礼子、松崎邦守、金安由理、小学校外国語活動における5年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果：文字指導とポートフォリオのカンファレンスに注目して、上越教育大学研究紀要、査読有、Vol. 34、2015、pp.203-212

北條礼子、松崎邦守、小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した5年生児童の動機づけを高める授業設計とその効果、上越教育大学研究紀要、査読有、Vol. 33、2014、pp.181-190

廣川統、北條礼子、松崎邦守、小学校外国語活動における簡略化ポートフォリオを活用した自己紹介に関する単元の開発研究、上越英語研究、査読有、Vol. 14、2013、3-17

北條礼子、矢嶋隆之、松崎邦守、小学校外国語活動におけるポートフォリオの試行に関する研究、上越教育大学研究紀要、査読有、Vol. 32、2013、pp.285-293

##### [学会発表](計14件)

北條礼子、坂田恵子、小林瞳、小学校高学年における文字指導・KINECT・映像を活用した外国語活動の試み、群馬英語授業研究会大72回例会兼合宿研修会、2015年3月7日

小林瞳、北條礼子、松崎邦守、小学校 4 年生を対象とした文字指導の効果、平成 26 年度日本教育大学協会研究集会、2014 年 10 月 18 日

本間奈央、北條礼子、松崎邦守、小学校 3 年生を対象とした文字指導の効果、平成 26 年度日本教育大学協会研究集会、2014 年 10 月 18 日

藤井裕記、北條礼子、坂田恵子、藤田真実、松崎邦守、小学校外国語活動における 6 年生の動機づけ向上のための他教科内容に関連した学習プログラムの開発と効果、2014 年日本教育工学会第 30 回全国大会、2014 年 9 月 19 日

北條礼子、松崎邦守、杉森範子、金安由理、高橋駿、加藤絵理、小学校外国語活動における 5 年生児童の動機づけを高めるポートフォリオを活用した授業設計と効果、2014 年日本教育工学会第 30 回全国大会、2014 年 9 月 19 日

坂田恵子、北條礼子、松崎邦守、藤井裕記、藤田真実、小が校外国語活動におけるポートフォリオを活用した 6 年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果、2014 年日本教育工学会第 30 回全国大会、2014 年 9 月 19 日

金安由理、北條礼子、杉森範子、加藤絵理、高橋駿、松崎邦守、小学校外国語活動における 5 年生対象のフォニックスと英単語を書く活動を組み合わせた文字市同学習プログラムの開発と効果、2014 年日本教育工学会第 30 回全国大会、2014 年 9 月 19 日

北條礼子、杉森範子、葭原佑季子、小学校中学年における書く指導導入の試み、群馬英語授業研究会大 65 回例会兼合宿研修会、2014 年 3 月 9 日

幸田勝敏、廣川統、北條礼子、金安由理、松崎邦守、小学校外国語活動における簡略化ポートフォリオを活用した読めて、書いて、言える自己紹介プログラムの開発、2013 年日本教育工学会第 29 回全国大会、2013 年 9 月 21 日

永島悠一、北條礼子、杉森範子、藤井裕記、小学校外国語活動におけるフォニックスとアルファベットを書く活動を組み合わせた文字指導の効果、2013 年日本教育工学会第 29 回全国大会、2013 年 9 月 21 日

北條礼子、松崎邦守、種岡真由美、陸川哲郎、小学校外国語活動におけるポートフォリオを活用した 5 年生児童の動機づけを高める授業の設計とその効果、2013 年日本教育工学会第 29 回全国大会、2013 年 9 月 21 日

北條礼子、矢嶋隆之、松崎邦守、小学校外国語活動におけるポートフォリオの試行に関する研究、2012 年日本教育工学会第 28 回全国大会、2012 年 9 月 15 日  
種岡真由美、北條礼子、矢嶋隆之、小学

校外国語活動における文字指導の試み、2012 年日本教育工学会第 28 回全国大会、2012 年 9 月 15 日

廣川統、北條礼子、松崎邦守、小学校外国語活動における簡略化ポートフォリオを活用した自己紹介に関する単元の開発研究、2012 年日本教育工学会第 28 回全国大会、2012 年 9 月 15 日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

北條礼子 (HOJO, Reiko)  
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授  
研究者番号： 50199460

### (2) 研究分担者

松崎邦守 (MATSUZAKI, Kunimori)  
北海道教育大学・教育学部・教授  
研究者番号： 90584160

### (3) 連携研究者

なし